

# スマイルサポート

## 比内支援学校地域研修会(スマイル・サポートセミナー)

7月31日(水)、秋田職業能力開発短期大学校で、第1回・第2回スマイル・サポートセミナーを開催しました。  
研修内容や参加者の感想をご紹介します。

### 第1回 スマイル・サポートセミナー

講演『通常の学級における特別な支援が必要な子どもの理解と支援』

講師：宮城学院女子大学 教育学部 教育学科 教授 梅田 真理 氏

本講座では、子どもの「困り」に気付くこととその対応の仕方、個々に応じた支援のために必要なこと、子どもの自立に向けて、支援者側が上手に手を離していくために大切なことなどについて学びました。講座の情報を抜粋してお伝えします。



#### ○「気になる」と思ったら、まず最初に検討すること

- (1)知的発達はどうか？ (2)家庭環境はどうか？
- (3)育ちの家庭に問題はなかったか？
- 最後に・・・(4)自分との相性の確認

※やり方を変えるのも一つの手段！

#### ○子どもに応じた支援のためのポイント

- ・どの段階でつまづいているかに気付く。
- ・特に苦手なことはどんなことかをよく見る。  
(他の先生に相談する、みんなで観察する)
- ・要因となるものは何かを考える。  
(色々な価値観を踏まえ、チームで検討する)



試行錯誤を重ね、子どもに合う支援の方法を見つける。

#### ○支援で大切にしたいことは・・・

- ・認める、ほめる、居場所をつくる
- ・他の失敗をしても、できたことは認める。
- ・役割を与える(ほめることにつながるように)
- ・ほめるときはみんなの前で、注意は個人的にする。

#### ○子どもたちの自立に向けて

- ・自分の特徴(得意や不得意)を正しく知る・理解することが大切です。(人と比べてではなく、自分なりの特徴として捉えること)
- ・自立に向けて育てていきたい力は、①「社会にとって必要な人間である」という意識(自己有用感)をもつこと、②困ったことやできないことがあったときに、人に助けを求められること。

子どもを中心にすえた支援を、そして、自分が支援の輪からぬけた後を考えて支援をすること



#### ○参加者の声○

「だめなものだめ」や自分が社会人になったときの経験を伝えながら、指導・支援をしてきたつもりでいるが、どのように伝えるか一人一人違うことに最近気づいてきた。支援を要するかどうかでなく、一人一人の個性や特徴を理解して指導することの大事さや引き出しをもつことの大切さを感じる事ができた。



#### ○参加者の声○

全ては子どもたちの「自立へ向けてだ」ということを改めて感じた。自立し、社会に入っていくその日までに、強い部分を生かしながら自己有用感や助けを求められる力など、自尊感情を高めていくことが必要だと学んだ。



## 第2回 スマイル・サポートセミナー

講演『発達障害のある子どもの理解と対応』

講師：秋田県立医療療育センター 発達障害者支援部 部長 荒川 祐介 氏



### ○研修内容○

・長年にわたり、多くの発達障害のある子ども、また保護者への相談支援にあたってこられた荒川先生から、相談支援の事例を交えながら本テーマについてお話をいただきました。

### ○発達障害支援の基本とは？

発達障害については個々のケースを学ぶことも大事ですが、基本的にはまずその支援の基本を理解しなければ、どのような個別のケースを学んでも、それを自分のケースに生かすことはできません。つまり、基本的なことがわかっていれば、個別のケースを学ばなくても、自分で対応を考えられるようになり、発達障害の支援のベースとなります。では、支援の基本とは何か？—障害という、その個人の機能や構造など「個人」に焦点が当たりがちですが、物事はもっと複雑です。

大切な点は、誰もが必ず誰かの環境因子だということ。

よかれと思って行っている支援や環境の設定がもしかしたら、本人の状態を悪くしていたり、プラスに働いていなかったりするかもしれない。この「果たして正しい支援なのかどうか」、「自分という環境因子が本人にどのように影響を及ぼしているのか」、それらの点をいかに意識して関われるかが、発達障害支援の基本です。

発達障害のことを理解する上で、覚えてほしいことは2つあります。一つは、「発達障害のもっている人や子どもが何に生きづらさを感じているのかを考えること」、もう一つは、「発達障害はとてども分かりづらい障害であることを理解すること」という点です。日々先生方が向き合っている子どもたちに置き換えてぜひ考えてみてほしいと思います。



### ○参加者の声○

教育的配慮を個人的にやりすぎると、本人の自己理解を妨げになることは、新しい視点だった。だからこそ、情報の共有やアセスメントが大切なだと理解できた。



### ○参加者の声○

本人が何を望んでいるのかを知りたいと思った。様々な配慮を個に応じているつもりであったが、知らず知らずのうちに子どもに不適切な関わりをしていたことを反省した。



## 県北地区 高等学校特別支援チーム研修会

日時 9月12日(木)14:40~16:35 場所 大館鳳鳴高等学校 学習室

内容 **実践発表** 特別な支援を必要とする生徒への校内支援

発表者 大館国際情報学院高等学校 飯塚 史子 先生

**講演** 「困難さのある 高校生の理解と対応」

講師 宮城学院女子大学 教育学部 教育学科 教授 梅田 真理 氏

特別支援教育に関わる情報提供や相談等、お気軽にお問い合わせください。

教頭：佐藤 香代子 教頭：加藤宏和

教育専門監：藤田久美子 地域支援部主任：市川千恵子

TEL 0186-55-2131 FAX 86-55-2132

ホームページ <http://www.hinai-s.akita-pref.ed.jp>

